

前立腺がんに対するMRI-US fusion生検組織に 基づいた個別化医療へ

① アピールポイント



客員講師
大橋 宗洋
教授
浮村 理

予後規定因子となりうる前立腺がん組織を MRI-US fusion生検により効率的に採取し、遺伝子解析データに基づいた個別化医療の実現を目標としています！

② 研究の出口のイメージ

患者生命を脅かすaggressiveな前立腺がんに対する効率的検査・治療戦略を構築し予後改善を目指します。前立腺がん遺伝子解析が得意な研究機関との共同研究を希望しています。

キーワード

前立腺がん、MRI-US fusion生検、遺伝子解析

研究内容

前立腺がん薬物治療においてホルモン療法はgold standardであるが、治療抵抗性がんの一部では遺伝子変異に基づいた個別化医療へと進みつつある。しかしながら実臨床では多くの場合、ホルマリン固定された針生検組織からのがん細胞DNA採取が必要となり精度の高い十分なDNA量が確保できないというpitfallが存在する。我々はmultiparametric MRIによる前立腺がん局在の正確な画像診断と超音波画像を融合したMRI-US fusion生検により効率的にがん組織を採取している。さらに針生検組織二分割治具を開発し病理診断と空間的に一致した組織の精度の高い分子生物学的探索を可能とした。

これらの革新的技術を活用し、前立腺がん患者の個別化治療機会を逃さず、さらに世界で最も精度の高い前立腺がんのレジストリを作成し、より精度の高い個別化医療を目指します！

